

加工用たまねぎの収量向上と面積拡大

高島農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

J A今津町は平成 23 年から加工用たまねぎの栽培を始め、平成 26 年度には収穫作業の機械化体系を確立しましたが、収穫前のほ場に雑草が多く機械を利用する前の除草に手間がかかっていました。また平均出荷量も目標(4.0 t/10 a)には達していませんでした。そこで、抑草対策の徹底により平均出荷量を向上させるとともに、栽培面積の拡大に向けた支援を行いました。

【普及活動の内容】

抑草に向けては、ほ場の雑草発生状況把握と早めに除草剤散布が必要であるため、J Aに定期的な現地巡回を提案しました。

そして、たまねぎの定植直後からJ Aと連携して生産者のほ場を巡回し、たまねぎの生育状況や雑草、病気の発生状況等の把握を行い、その情報を活用した「たまねぎ情報」をJ Aを通じて6回発行し栽培管理の指導を徹底しました。

あわせて、栽培前と収穫前の2回、研修会を開催し、生産者の栽培技術向上を図りました。

また、7月には、J Aとともに生産者戸別訪問を行い、来年度に向けた栽培面積の拡大を働きかけました。

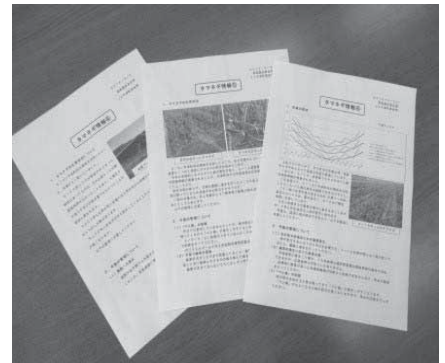


写真1 たまねぎ情報



写真2 栽培研修会

【普及活動の成果】



写真3 雑草のないほ場で収穫作業

除草剤は4回程度散布し、雑草は抑えることができました。4～5月にかけてたまねぎ肥大促進のための通路灌水も実施できました。全国的にはべと病の発生が多かったのですが、早めの防除が徹底でき大きな被害はありませんでした。

この結果、平均出荷量は目標を上回る4.1 t/10 aとなりました。また、栽培面積は4.1haから5.2haに増やすことができました。今後も収量向上、面積拡大を目指して支援していきます。

◎対象者の意見

目標以上の出荷量がありました。次年度は面積を増やします。(生産者)